

子持山山行報告

【山行日】 2024年 5月 6(月) 曇り
【集 合】 岩舟支所P AM 6:00
【費 用】 マイカー2台 : 2,200円
【メンバー】 CL:鈴木ユ、SL:石澤、青柳、飯野、
小林、嶋田、関、野口、廣瀬ナ、福島、若林
【コースタイム】岩舟支所P6:00=七号橋P
7:15/7:30~しし岩 9:00/9:20~柳木ヶ峰
10:00/10:10~子持山 1025/10:40~柳木ヶ峰
10:55~大タルミ 11:20/11:50~七号橋P
12:30/12:40=道の駅「こもち」13:00/13:20=岩
舟支所P14:30



久しぶりに子持山のリクエストがあり、GWの最終日に計画した。初めて登る山は人気があり、11名が6:00に岩舟支所を出発する。北関東道から関越道を走り、渋川ICで降りて国道17号線を進み、道の駅「こもち」でトイレを済ませる。道の駅の先から国道353号線を進み、子持入口の信号を左折し子持神社の脇を通過して七号橋駐車場に車を止める。出発の準備を整えたらストレッチを済ませ、七号橋を渡って道路を進むと大きな登山口標識が立っている。ここから右に石段を登って行くと、沢の中の道を登るようになり、沢の水を避けながら踏み跡を辿る。間もなく左側に屏風岩と呼ばれる切り立った崖が現れ、基部には祠や役ノ行者の像が安置されている。沢沿いの道を登ると案内標識があり、道が二つに分かれている。そのまま沢沿いに登る一般向け登山道と、経験者向けの難易度の高い尾根道を登るコースに分かれる。今回は左の経験者向けの尾根コースを選択し、大きな岩を登って岩尾根に取付き、滑りそうな岩をトラバース。その後もロープや木の根を頼りに岩場をよじ登り、ヤセオネに登り上がる。左に進むと屏風岩の上に出られるが、大勢なので右にシシ岩に向かって登って行く。両側が切れ落ちたスリルあるヤセ尾根を、アップダウンを繰り返しながら登って行く。広葉樹の尾根は新緑が美しく、緑のシャワーを浴びながら気持ちよく歩ける。時折前方にシシ岩の岩頭が見え、「エ～あれに登るんだ～」と不安そうな声が聞こえる。スリルある尾根歩きは岩のアスレチック状態で、岩登りに慣れない人には大変そう。体験山行の若林さんが苦戦しているの、関さんが足場を教えながら登っていた。



岩登りが好きな人にはたまらないコースで、スリルを楽しみながら嬉々として登っている。アップダ



ウンを繰り返しながら岩稜を進み沢コースからの道と合流する。ここから左に岩場をロープで登り、岩尾根に出たら左に細い岩場をトラバースするとシシ岩の基部に出る。垂直の岩場に鉄のハシゴがぶら下がり、ハシゴを登ってクサリで岩場を登るとシシ岩の上部に出る。上には5名の若者が居て降りたいと言うので、3名が登った所で先に降りてもらふ。その後皆さんが一人ずつ登り、全員シシ岩に登り着いた。ここからの展望は雄大で、赤城山から上州武尊山、榛名山や浅間山の眺

望が素晴らしい。岩頭で記念写真を撮ったら休憩し、展望を楽しみながら冷たいゼリーや菓子をいただく。展望を楽しんだらクサリとハシゴで基部まで下り、この先の分岐を直進して尾根上の急坂を登って行く。石祠がある小ピーク出て、ここから少し下ると柳木ヶ峰に着く。ここは下山路の大ダルミへの分岐になっており、小休止して水分を補給する。この先も岩っぽい登りが続き、ロープを頼りに急坂を登ると子持山山頂に着く。山頂は南北に細長く北の端に山頂標識と一等三角点が置かれている。大休止してどら焼きやぬれ煎餅をいただき、疲れた足を休める。東側に展望が開け、上州武尊山方面の山々が望めた。展望を楽しんだら下山開始し、



往路を戻って柳木ヶ峰から右に下って大ダルミへ向かう。大ダルミへの下りはザレた急坂で、滑らないよう慎重に下って行く。しばらく下ると傾斜が緩やかになり、広くなだらかな大ダルミに着く。ここでランチタイムとし、お湯を沸かしてカップ麺やおにぎりをいただく。ランチが済んだら下山開始するが、若林さんの足が攣りツムラの68番を服用し治まるのを待つ。足攣りがおさまったら下山開始し、左に8号橋に向かって下って行く。新緑の自然林の道を下り、やがて沢沿いの道を下るようになりとて

も清々しい。シロバナエンレイソウやヤマブキソウの花々に癒されながら下り、道路に出たら8号橋を渡って駐車場に戻った。靴を履き替えたなら帰路に着き、道の駅「こもち」でトイレと買い物を買ませ、予定より早く岩舟支所に帰着した。